

水の事故防止

夏に集中

小さないのちを守る

太陽の光の中で思いっきり遊びまわれる夏は、子どもたちにとって最も楽しい季節。

海や山や川に、元気なはしゃぎ声が響きますが、一方この時期は、いろいろな事故の多いシーズンでもあります。

とりわけ、水による事故で、いたいたいな、いのちが失われたというニュースにふれると胸が痛くなります。

昭和六十年中の全水死者の約三割が中学生以下の子どもたちで、その事故のほとんどが夏休みに集中しています。



保護者がいないと危険率が高まる

子供の水の犠牲者を統計からみてみますと、次のような特徴があります。

●場所別では河川(百一人)が最も多く、ついで海(八十六人)、用水堀(四十二人)、湖、沼、池(四十人)、そしてプール(二十八人)の順です。

●どんなときに命を落としているかというと、水泳中(百二十二人)がいちばん多く、ついで水遊び中(八十七人)、魚釣り(二十五人)、通行中(十六人)と報告されています。

●保護者が同行せずに、子供

だけで行った場合に起きた悲劇がやはり全体の約七割を占めています。

水の恐ろしさを教えよう

子供とりわけ三歳〜五歳前後の幼児は、水が命を奪う危険なものであることを、体験的に知りません。

水しぶきをみれば、本能的に遊びどころがわいてきて、ヨチヨチ歩きで近づいていきます。

ちょっとお母さんが目を離れたスキに、とりかえしのつかない事態になることが多いのです。

また、小学生でよく見られる事故に、プールの排水口に足を吸い込まれて水死するというケースがあります。

水遊びをするときは、次のような点にぜひ注意して、事故を防ぎましょう。

●近くに用水堀やため池などの危険な場所があるときは、管理者に申し入れて、サクヤふたなどをしてもらいましょ

●子供たちだけで水泳や水遊びに行かないように、ふだんから子供に言い聞かせましょ

●出かけるときは、必ず大人が同行するようにしましょう。

●雨降りのあとは、川や用水が増水します。子供たちを近づけないように特に注意を。

●危険な水辺で遊んでいる子供を見かけたら、進んで「危ないからやめなさい」のひと声を。

* 夏休みが楽しい思い出の日記帳となるように、ぜひお子さんたちと、水の恐ろしさについて話しあっていただきたいものです。

まつりは参加した方が楽しいのです

8月9日(土)

湯免温泉広場
午後5時30分
から



りつよ泉温免湯

5:30~7:00

福引大会

6:30~7:30

歌謡ショー

7:30~8:30

素人カラオケ

のどまん大会

8:30~9:45

盆踊り大会

9:45~10:00

総踊り

(お楽しみ)

もちつき

ピヤガーデン
焼とり、バザー、
夜店

(雨天・老人センター)

